

続きまして、基調講演②を始めます。

実践、介護ロボットの導入活用9つのステップと題しまして、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、情報未来イノベーション本部、先端技術戦略ユニットマネージャー、足立圭司様よりご講演をいただきます。

それでは足立様、よろしくお願いいたします。

はい。

改めましてエヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、足立でございます。

ここからは20分ほどお時間をいただきまして、介護ロボットの9つのステップについてご紹介させていただきたいというふうに思っております。

では早速、入りたいと思います。

本日のメニューでございますけれども、まず最初に介護ロボットの導入の意義をお話させていただきます。

そして2番目、介護ロボットの9つのステップということでお話させていただきますが、本日の私のお話はこの絵に出ておりますとおり、介護ロボット導入の手引きということで、昨年度埼玉県様がおまとめになりました、この手引きに即した形でお話を進めさせていただきます。

また、昨年度の年度末、年末ですね、に実務者層向けと管理者層向けと、ありましたけれども、管理者層向けを終えております。なので、今回の実務者層向けの、このセミナーでは、導入前期に焦点を当てて、より具体的な手法に触れていきたいというふうに考えております。

よろしくお願いいたします。

それでは早速、介護ロボットの導入の意義でございます。

これはもう介護の業界にいらっしゃる方であれば、見慣れた数字かと思えます。

いわゆる需給ギャップの問題でございます。

ご覧のように、2025年には、37.7万人の需給ギャップが発生すると、こういった問題意識が国全体でございます。

そういったところに対して、介護ロボット等を導入した、いわゆる生産性の向上、介護現場の生産性の向上ということが、昨今取り沙汰されておるところでございます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の対策としても、この介護ロボットが注目されております。

いろんなメディアでこのように取り上げられておまして、例えばこの介護ロボットなら触れ合えるということで、介護現場で家族の代役として介護ロボットを使えるんじゃないかといったようなところですか、国ですね、経済産業省さん或いは厚労省さんもかなり注力されて、この介護ロボット等をコロナという問題をとらえていらっしゃいます。

先ほどもございましたが、この介護ロボットの開発、実証、普及のプラットフォームという事業に大きなお金を投じて、今取り組みを今年度しているところでございます。

ではその介護ロボット、どんなものがあるか。

先ほどのパネルディスカッションにもありましたとおり、まだまだこの介護ロボットというものの概念が、まだぴんときてない方もいらっしゃるというのが実態であると思います。

まずロボットってどんなものがあるかっていうところなんですけども、介護ロボットの定義とは少し難しい話になりますが、情報を感知するセンサー系ですね。

そして判断し、動作する、アクチュエータとか駆動系のことですが、こういった3つの要素を有する知能化した機械システムということで、これがロボットの定義と一般的には言われておるそうです。

で、介護ロボットは、このロボット技術が応用されて、利用者さんの自立支援ですとか、介護者の方の負担軽減のために役立つ、そういったものを介護ロボットというふうに呼んで、ということなんです。

介護ロボットの例といたしましては、そちらに絵をいくつか貼り付けておりますけども、ある方に介護ロボットということを知っていると、人型のロボットをイメージされる方結構多いんですね。

実は人型のロボットをしたロボットも一応ありますけども、一部ございますけども、そういったことばかりではなくて、こういった

移乗支援とか移動支援とか、こういったところでロボットが活用されているというのが現在の姿でございます。

介護ロボットを整理しますと、今6分野に分かれております。

移乗介助、移動支援、そして見守りコミュニケーション、排泄支援、入浴支援、介護業務支援ということでこの6つが、経済産業省さん及び厚労省さんが定める重点項目と重点分野としてこの6分野が定められております。

そしてこの他にもですね、様々なテクノロジーが活用をされ始めております。

例えばそこに緑のところがございます、自動運転、自動運転車椅子ですとか、ケアプランをAIで作ろうといったようなロボットですね。

そしてICT。

これはインカムですとか、スマートフォン等を含んだもの。

こういったテクノロジーが今活用され始めてるところでございます。

活用され始めているその介護ロボットの、導入の効果について考えてみたいと思います。

介護ロボットの導入効果というのは、こういった式で表されるんじゃないかということで考えております。

黄色のところは介護ロボットの機能、そしてそれに掛けるよう、掛け算でオペレーションということでございます。

具体的な事例をご紹介しますと、見守りロボットでございますが、この見守りロボットの効果っていうのは、介護ロボットの機能、黄色の部分ですね。

どんな機能があるかっていうと、利用者さんの動きを検知して、アラームを鳴らす。これ機能ですよ。

またタブレットに居室内の画像を映し出す。

これも機能でございます。

ただ、この機能だけでは、介護ロボットの導入効果というのは生まれないということなんです。

じゃあどういものをかけ合わせていくべきかということなんですけども、

緑の部分をご覧ください。

ロボットをどのような利用者さんに使うのか或いは使わないのかといったようなルールを決めるといったこと、或いはタブレットの充電の管理ですね、いざ見ようとした時にいざ使おうとした時に、充電がないということでは使えませんので、こういった充電のルールを作っておく必要があると。

或いはアラームの音量ですね。

大きな音量ですと他の利用者さん起こしてしまうということもあります。

アラームの音量、細かいことですが決めておく。

これもルールでございます。

またどういった時に奉仕するのか、或いはしないのか、こういった基準を設けて、ルール化しておくといったようなこと。

こういったルール化や工夫、試行錯誤を含めて、オペレーション、このオペレーションを介護ロボットの機能とうまく組み合わせていて、やっと介護ロボットの導入効果というのは見えてくるんじゃないかというふうに考えております。

しがいまして、本日私のお話は、この緑のオペレーションというところに焦点を当てて、お話をしたいというふうに思っております。

介護ロボット導入の9つのステップでございます。

先ほど申し上げたとおりこの9つのステップにつきましては、埼玉県様がおまとめになった介護ロボット導入手引き、というところを、詳細はご覧いただければというふうに思います。

本日はこの導入前期、このステップの中でも、よりプロジェクトの方々が汗をかいて、苦労されるところでございます。

その反面、一番このプロジェクトの中でも重要なフェーズと言って過言ではないかと思っております。

ここについてご紹介したいというふうに思っております。

まず失敗例から入りたいと思います。

最も多い失敗例、“とりあえず導入”によるお蔵入りとありますけども、経営者層の方が、最近ロボットがよく聞くと、補助金があるそうだと、渡りに船だということで、とりあえず補助金を申請してみようということで、現場が毎日忙しくしてますので、そういったロボットっていいそうだというふうに聞いてきて、補助金もあるんなら一度うちもやってみようかということで、申請することがよかれと思ってるわけですね。

現場の反応、じゃどうだか見てみましょう。

そうすると、ロボットが介護できるわけないといったような反応ですとか、ただでさえ忙しいのに、介護ロボットなんて使い方を覚えてる暇なんてないということ、そして余計な手間が増えた、先ほどから出てる、試行錯誤ですね、こういったところがありますので余計な手間が増えた、面倒だ、というようなこと、そういった声が聞こえてきます。

これ何かと言いますと、現場の課題を分析しないで、経営者層の方は良かれと思って導入するわけなんですけども、補助金を機に、とりあえず導入をしてしまって、結果として活用どころか、お蔵入り、倉庫に眠ってしまうというような現象、こういったことを増やしてしまうということなんです。

これが現場の実態、多く目にするところでもあります。

で、もう一つ加えて言いますと、この赤い字で書いてあります、ロボットに対する抵抗感とか、期待はずれ感、といったところまで醸成してしまって、またロボットをもう1回やってみようかという気にならないといったような雰囲気まで、醸成してしまってるのではないかとといったような問題点でございます。

こういったところに対して、やっぱり現場の課題を見える化することはいかに大事かということが分かってくるわけでございますが、課題の見える化というところを話したいというふうに思います。

課題の見える化、いろんな手法があるかと思いますが、我々がお勧めしておりますのはこの因果関係図を作ってみてはどうかということをお勧めしております。

ステップがいろいろありまして、3つほどありまして、課題の洗い出しから課題全体の把握、そして打ち手の検討、解決する課題の特定、ということでございます。

ちょっと詳細を見ていきたいというふうに思います。

まず最初に何をするかといったところです。

先ほどのパネルディスカッションでも出ておりましたけども、ポイントはこういった気づきシートと呼ばれるようなシートでございますが、これは何かというと、課題を書いてください、というものです。簡単な課題で結構です。

どこでどんな課題があるかといったところです。

ポイント、必ず施設の全員の方に、職員全員にこのシートを配ってくださると、ちゃんと巻き込んで、全員を巻き込んでくださいといったようです。

そしてできるだけ多くの気づきを書いてくださいと。

目標は30枚から50枚ぐらいです。

あと、これを因果関係図ということで、これを材料に作っていきますので、材料が多ければ多いほど、結構です。

また、課題の粒度感とか或いは介護ロボット、そして関係ないんじゃないのっていうなものもある、あると思います。

これ、一切考えなくていいです。

細かいことは考えなくて結構ですので、この段階では、普通の業務の中で不都合に感じる事、負担に感じる事などを思い思いの感覚で結構ですので、書いてくださいということをお願いしています。

そしてこの気づきシート、次どうするかと言いますと付箋に転記していきます。

付箋にはできるだけ短い文章で書きましょう、とあります。

一つの付箋、1枚の付箋に一つの課題。

ということで、短い文章、例えばここにありますが夜勤業務が精神的負担だという、これぐらいの粒度感で書いていただければと、文章の文字数で書いていただければ、というふうに思います。

この付箋はどんどんどんどん増やしていきましょう。

この因果関係図を作るステップで、どのステップでも構いません。

思いついたものはどんどん付箋に書き込んで、増やしていきましょうということです。

そしてこの付箋を、次にグルーピングしていきます。

例えばここにございますように、記録業務に関する課題ですとか、人材育成に関する課題、いろんな課題があると思います。

ここで皆さん気づかれるのはこういったことです。

業務、施設全体にどんな課題があるのか、あの人はこんなことを考えてるんだ、といったようなのに、意外に気づくことが多いです。

また、職員の問題意識がどこに集中しているのか、これは、付箋の数をみてみれば一目瞭然でございまして、重複も全然構いませんのでどんどん出していくと、付箋がどんどんどんどん集まっていくところと、そんなに集まらないところとやっぱ、付箋の数によって、どんなところに問題意識が集中してるのかっていうのがよくわかります。

こういったものを気づきを与えてくるのがこのグルーピングであります。

そして次のステップ、グルーピングしたあとに、いよいよ因果関係で、矢印つないでいきます。

この時のポイントは、原因、結果、悪影響の順番にどんどんどんどん矢印でつないでいくということなんです。

付箋は相変わらずどんどん増やして結構ですということです。

そして、1枚の付箋に出入りする矢印は1本と限りません、というふうに書いてあります。

で、実際の因果関係の写真でお示しするとこんな形です。

これまだかわいいほうでして、実際もつとつとぐちゃぐちゃに線が入ります。

これで構いません。

一旦これで見える化するということで、皆さん思い思いに線を引いて、また付箋をどんどん付け足して行って作っていったりします。

そして、先ほどの1枚の付箋に出入りする、出入りする矢印は1本とは限りません、というところではありますが、例えば、無理な姿勢での移乗介助をしているがために、腰痛になっている。

こういった因果関係を見つけたとします。

で、この時に、必ず逆からも考えてみるということで、無理な姿勢で移乗介助がなくなればですね、これが解決されれば自動的に、腰痛は解決するんだろうかという、逆の発想で考えてみていただきたいと思うんですね。

そうすると、無理な姿勢での移乗介助だけじゃないよねっていうことに、多分気づくと思うんですね。

そうすると何ががあるか。

例えば、本来2人で介助しなきゃいけないことを1人で介助しているですとか、おむつ交換によって負担があるとか。

或いは業務に偏りがある。

いったようなところに、目線がいくと思います。

そういったことをどんどんどんどん有機的につなげていく。

必ず、逆からも考えてみるということをお願いしています。

そして、実際の因果関係ですね、このような形で、どんどんどんどん原因の深掘りという言葉がありますけども、原因の深掘り方法、すなわち左の画面で言いますと左方向にですね、どんどんどんどん思考を展開して行って欲しいというふうに思っています。

ちょっと見えづらいですが、例えば人手不足というところを起点にしますと、離職が多いということと、採用が少ないということに分かれていくと思います。

そしてこの離職が多いということはなぜかという、例えば腰痛で離職する方、また、家庭の事情で離職する方、人間関係で離職する方もいらっしゃるかもしれません。

例えば腰痛を、先ほど分解したように分解していきますと、移乗介助の負担が大きいですとか、2人介助を1人でやるとか、無理な姿勢でそもそもやっているとか、このように、どんどんどんどん、なぜなぜなぜという形で深掘りしていけるものなんですね。



こういったものが、因果関係図の強いところでございます。

いわゆる、世に言う、なぜなぜ分析をやっているということなんです。

こういった分析を加えていくと、こういった因果関係図ができます。

で、因果関係図ができたら次はどうするか、これで、課題が見える化されたわけなので、次にやっぱり解決したいわけですね。

課題に、課題を解決するための打ち手、これは昨年度、また、一昨年度厚生労働省さんがまとめられた、介護事業所の介護事業における生産性向上のガイドラインというものがございまして、そこに書かれておるところでございます。

課題に対する打ち手、この中に②のところですね、テクノロジーの活用ということで介護ロボットがその打ち手の一つとして位置づいているというところでございます。

ぜひですね、ホワイトボードにこの付箋を整理して、線でつないで因果関係図を作ったら、この位置に①②③④⑤⑥⑦ というマグネットをご用意していただきたいと思います。

このマグネットを、このように矢印の上に乗せて、こういった取り組みに、取り組みで、この因果関係を断ち切っていくのかということ、を皆で考えていきたいというふうに思うんですね。

こういったことで、こういった課題でこういった打ち手をしていくのかということを決めていくということです。

実際にはこのようになります。で、次にですね、この付箋から矢印が出てその矢印の上に打ち手を打ったということでポイントでございまして、課題全体像、それから課題の構造、何をすべきなのかということが見える化されたということでございます。

それから、介護ロボットが役に立つのは、課題全体のほんの一部でしかないということに、たぶん気づきます。

すべてを解決してくれるわけではない。当然なんです、こういった見える化することによって、やはり気づくということは大事ですね。

あとは、ご覧のように多剤併用と書いてありますが、このマグネット一つ一つを薬に例えると、多剤併用です。

つまり、一つの薬では解決できないということなんです。

介護ロボット一つでは解決できない、その周りでいろんなことをしなきゃいけないということにお気づきになると思います。

ぜひこういった活動をしていただきたいというふうに思います。

で、そのあとどうするか。一気にすべての課題を取り組むことは不可能です。

なので、優先順位をつけて一つずつ丁寧にやっていきたいというふうに思います。

こういったことを踏まえて、ご自身の施設でもやっていただければなというふうに思います。

次に簡単にはございますが、課題の見える化をしたあとに、導入計画の作り方ということに触れていきたいと思います。

導入計画でございますけども、ポイントは3つございます。

課題解決の作戦を立てて、いわゆる道筋を立てていくということ、そしてその道筋に、成果の見える化ということで評価指標を決めておくということです。

「風が吹けば桶屋が儲かる」といったものをご存知でしょうか。

これロジックなんですね、ロジックというちょっと難しく聞こえるかもしれませんが、これは道筋、屁理屈でございます。

風が吹けば、埃が目に入って目の見えない方が増える、目の見えない方は、昔三味線で生計を立てることが多かったので、三味線が増えます。三味線は猫の皮でできておりますので猫が減る。

猫が減ると、天敵がなくなったので、ねずみが増える、ねずみが増えると、桶がけがられて、桶屋が儲かる、いわゆる屁理屈でございますが、こういった道筋を計画書に書いてほしいということを、言いたいところでございます。

施設の課題を解決するための道筋としては、この緑のようなところがございます。

実際には見守りセンサーを導入すると、タブレットで利用者さんの状態がわかり、そして無駄な訪室が減って、介護者の負担が減る、利用者さんの眠りを妨げないということで、職員の離職が減ったり、介護者さんの満足度が上がったり、こういったロジックでございます。

こういった道筋を計画書に、ぜひ書いてください、考えて書いてくださいということをお伝えしております。

次にですね、評価指標の設定ということで、無駄な訪室が減るといったものは、例えば訪室の回数を先ほどのパネルディスカッションにあったとおり、数えれば見える化できます。

或いは、歩数計をつけて歩数が減ったということも わかると思います。

また、職員の離職を、これ離職率ですとかその離職率の先行指標として、例えば欠勤が減ったとか、そういったところで見える化していただくとというのが、プロジェクト上ではすぐわかりやすくよろしいかというふうに思います。

以上、駆け足ではございましたけども、介護ロボット9つのステップをご紹介させていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

足立様、ありがとうございました。

ここからは質疑応答の時間となります。

これまでに皆様から寄せられたご質問をパネリストの方々にご回答いただきます。

それではここから再び進行を足立様、よろしくお願いいたします。

はい、ありがとうございます。

ここからは、皆様から、視聴者の皆様からいただきましたご質問を中心に、パネリストの皆様にもお答えいただきたいというふうに思っております。

10分程度でございます。よろしくお願いいたします。

まずですね、一つ目、介護ロボットのプロジェクトチームのメンバーではない職員から、どんな声が上がったのか、プロジェクトチームから見て、導入に対する施設全体の雰囲気は前向きであったか。

という質問をいただいております。

必ずしもですね、前向きでなかったところもあったと思います。

逆風が吹くところ吹く場面もあったんじゃないかというふうに思っております。

実際どんな声があったのか、リアルなところを教えてくださいたいと思います。

影山さん、どうですか。

使用に関してのことは、やはり先ほどもなかなか触れられない職員がいるというところで、使い方がわからないというところを、私自身に伝えていただければいいんだけど、そうじゃないところをお話をしてどうしようかっていうことになったりもしていました。

なかなか結構早く気がついたので、そこには個人的には対処、一緒にそのPALROを使うということで、対処ができたかと思うんですが、うん、そうですね、使えない、使えない、うん、使い方がわからないというところで、結構な返事があったのとあと、PALROの聞き取り能力自体が、テレビ等に邪魔されてるっていうのを最初気がつかないで使っていて、使い方が難しくなっていたんですが、そこをアドバイスもできて解決できるまでは、結構その意見も聞いたこともありました。

その都度解決はできてたかと思うんですが。

先ほどもあったとおりプロジェクトチーム等をプロジェクトチーム以外の方のスタッフとのコミュニケーションをいかにをスムーズに構築していくか、みたいなところは課題だということなんですね。ありがとうございます。

落合さんどうですか。

はい。

うちは12ユニットあるうちの2つのユニットでやってたので、他のところからは何をそんなに忙しそうにしてるのかな、みたいな感じで見られたっていうのが、ありますね。

それからプロジェクトメンバー、一応2つのユニットの職員全員とは言ってるんですけども、やっぱりどうしてもリーダーや係長、私たち課長だったり役職者のほうが熱意があって、新人さんだったりとか、そういったところからは、ちょっと、何だろうな、結構検証が大変だったりしたので、そこまで必要なかなみたいな、このぐらいでデータの収集はいいんじゃないかな、みたいなふうに言ってるのが、ちらっと聞こえたっていうことがありましたけど。

はい。そんな感じですか。

はい、ありがとうございます。

小高さんのところは、見守りセンサーでしたね。

はい、どうでしたか。

そうですね、うちの職員は皆結構協力的にやっていただきまして、研修の時にですね、夜間、夜間だけだったんですけども、万歩計を付けていただきまして、それで、夜勤中、何歩、歩いたかっていうのを毎回、記入していただきましたし、無駄な訪室が、何回、夜間中に何回あるのかも、すべて協力してやっていただきました。

ですが本格導入で入った時に、やはりスマホの操作がやっぱりできない方がいましたし、スマホ自体を持ってない人もいましたので、それを教えるのにちょっといろんな職員からわからないわからないっていうのは、意見を聞かれました。

そうですね、だいたいそのわからない方に対しては個別に教えて、一応みんなできるようにはしました。はい。

みんなできるようになるまでにどれくらいかかりましたか。

だけど1回教えると、結構やっぱわかる方はわかっていて、そうですね、その、はじめ試行導入っていうので、従来型のベッドセンサーと、そのシルエット見守りセンサーを同時に2個使ったんですけども、その間がだいたい1ヶ月、2~3週間やったんですけど、もうその間で、職員はみんな、スマホの使い方を覚えてくれました。

はい。

なるほど。

すぐに一度に全面展開せずに、試行的な導入のフェーズを設けられたということなんですね。

はい。

なるほど。その時に皆さん、研修とか個別の。

そうです。

指導して、覚えていただいたということですか。

はい。ありがとうございます。

じゃあ次の質問をいただいています。

介護ロボットが、入居者に受けられるかどうか不安、という声ですね、こういったところがあったので、そこをどういふうに、緩和していったのか、或いは不安はあったのかなかったのか、どんなコミュニケーションを入居者ととられたのか、そのあたり聞かせていただけますか。

これはPALROを導入した、影山さんお願いできますか。

はい。

PALROの導入で、利用者様の受けは、不安なところは正直ありました。

ただ入れてみると、結構皆さん導入はじめはおもしろそうに近寄って遊びに来てくれたりとかもあって、導入自体、利用者様で苦労したという思い出は少なかつたかと思えます。

ただ使っていくうちに、やっぱ離れ、ちょっと飽きられてしまうということも、後半では感じる場所があったんですが、レクとかの使用の中で、職員がついて一緒に行うとか。

あと個人の使用の時に、ちょっとPALROの声の質とかを苦手としている利用者もいたりしたんで、その辺を配慮しながら使うことで、特に受け入れられることに困ってるというところは、少なく感じたかなと思えます。

うん。上手に受け入れてもらえたかと思えます。

むしろ前向きに関心を持って、興味関心を持って受け入れてもらえたということですね。

そうですね。

はい、わかりました。

見守りのセンサーを入れられた、落合さんところはどんな説明をされましたか。

入居者の方についてということですよ。

うん。

正直特に説明はしてないというか、行った時に、あらどうしてわかったの、みたいな話があった時に、こっちでこういうセンターを使ってるからわかるんですよっていうような形で、お話をしたぐらいですかね。

もう1個、その眠りSCANじゃない、普通の離床センサーの時はピンポンって鳴るので、やっぱり入居者の方も、何か監視されてるみたいとかっていうのは結構あったんですけども、眠りSCANの場合には、起きたよとか、寝てるよとかっていうのはこっちでわかるので、そういう意味では入居者の方のところに、無駄に訪室することがなかったので、うん。

そうですね。

うちの実証実験の時に、眠りの時間が増えたっていうのができたんですけども、はい。

受け入れられてたんじゃないかなと思います。

利用者さんの眠りの状況がわかるので、その状況を見ていますと、ビフォーアフターで比べて、睡眠の質が上がったっていうような実感があったかと思います。記憶しております。

はい。

小高さんどうですか。

そうですね、うちも見守りなので、不安はありませんでした。

ですが一番最初にご家族の方に同意書をいただいて、それから利用者様に説明をしてですね、スマホでこういうふうに見えるんだよっていう説明はしました。

はい。

わかりました。ありがとうございます。

導入されて、介護ロボットに対する評判、スタッフの方でも、利用者さんの方でも結構です。

どんな評判を今ありますか。

これまで、聞こえてきてますか。

これは小高さんからいきましようか。

そうですね、スタッフの職員のほうからは、本当、先ほどもお話したようにコロナ対策でも使用しておりますし、シルエット見守りセンサーが今、今現在本当にはない状態では夜勤ができないぐらいなので、職員からはよかったもうちょっと増やしてほしいねっていう声が上がってます。

はい。

ありがとうございます。

落合さんお願いします。

はい。

眠りの状態が見えるってところでももちろん、起きて、転倒の危険がある方が起きた時とかを事前に察知できるという、危険予知、転倒予防の部分も、あるし、あと今看取りケアの対応の方が増えているので、そういうところでも呼吸や心拍が出るので、そういったものを看取りの時に使ってますと、これは看取りケアの時にケアプランもらう時にご家族の方にもご説明をするんですけども、そういったところで家族も安心、で職員のほうもそこで、状態を見れるっていうのが安心に繋がっているというふうに、思います。

なるほど。ありがとうございます。

最後、影山さんお願いします。

はい。

評判というのとちょっと違うとは思んですが、先ほどのPALROにレクを覚えてもらったような感じが見受けられるので、どうしてもレクリエーションを苦手とする職員っているかと思うんですが、その中でPALROを使うことで、レクリエーションはもっと手軽にできるとか、やることに困ってるというような、精神的な負担に関しては、特に今、そういった話が出なくなったので、それだけでもPALROを入れた成果があるのではないかと実感してます。



はい。

ありがとうございます。

まだまだご質問をいただいているんですけども、時間の制約がございまして、質問は以上とさせていただきますというふうに思います。

ありがとうございました。

足立様、パネリストの皆様、ありがとうございました。

続きまして、介護ロボット地域フォーラム事務局より、介護ロボットの開発、実証、普及のプラットフォーム構築事業の紹介をお送りします。

皆様こんにちは。

この動画では、2020年8月にオープンしました、介護ロボットプラットフォームについて紹介していきます。

本事業で取り扱う介護に関するテクノロジーについてご説明します。

厚生労働省と経済産業省では、ロボット技術の介護利用について、重点的に開発する、6つの分野を設けています。

移乗介助分野には、装着型と非装着型のロボットがあり、介助者のパワーアシストなどを行います。

移動支援分野には、屋外移動、屋内移動、装着移動のロボットがあり、非介護者の移動支援や、転倒予防などを行います。

排泄支援分野には、排泄処理、排泄予測、動作支援のロボットがあり、非介護者の排泄支援を行います。

見守りコミュニケーション分野には、介護施設や在宅介護での見守り用、コミュニケーション用のロボットがあり、非介護者の見守りとコミュニケーションの支援を行います。

入浴支援分野のロボットは、浴槽に出入りする際の動作を支援します。

介護業務支援分野のロボットは、介護業務に伴うデータを収集蓄積し、介護業務の改善を行います。

また、重点分野の6分野13項目だけでなく、インカムや自動運転技術を活用した車椅子、AIを活用したケアプラン作成支援など、介護分野でのテクノロジーの活用が進んでいます。

介護ロボットプラットフォームでは、相談窓口、リビングラボ、実証フィールドを通じて、介護施設や介護ロボットの開発企業を支援します。

相談窓口では、介護ロボットの導入、活用に関する相談を受け付けます。

リビングラボでは、開発中の製品の評価や効果検証、実証支援を行います。

実証フィールドでは、介護現場での試験的運用や導入効果のデータ収集を行います。

それでは、相談窓口とリビングラボについてご紹介していきます。

はじめに、相談窓口の取り組みについてご紹介します。

相談窓口では、介護現場・開発企業からの各種相談を受け付けるほか、様々な介護ロボットの体験貸出を利用することができます。

まず、介護現場への支援では、介護現場からの各種相談への対応を行っています。

介護ロボットの導入方法に関する手引きやガイドライン、補助金や融資のご紹介、国の事業で開発された機器や導入活用事例の紹介、国のモデル事業や地域のモデル施設の紹介、パンフレットなどを通じた本事業の紹介を行っています。

この他の介護現場への支援として、介護ロボットを試験的に導入したいという方への試用貸出、介護ロボットに触れることができる体験展示、介護ロボットの活用事例などを紹介する研修会の開催を行っています。

次に開発企業への支援内容をご紹介します。

開発企業への支援では、介護ロボットの製品評価、効果検証、専門的技術的助言を必要とする開発企業に対して、リビングラボネットワークへの取り次ぎを行います。

その他の開発企業への支援として、自治体等が実施している介護ロボットの開発助成制度の紹介、介護ロボット、地域フォー

ラムの出展のご案内のほか、介護ロボットの普及方法の紹介、パンフレットなどを通じた本事業の紹介を行っています。

相談窓口は全国に11ヶ所あります。

各相談窓口には担当エリアがありますが、相談者はどの相談窓口でも利用することができます。

続いて、リビングラボの取り組みについてご紹介します。

リビングラボにはテクノロジーを開発、評価するための機器や、実際の生活空間を再現した環境が整備されています。

リビングラボは実際の生活空間を再現し、新しい技術屋やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットの開発を促進するための拠点です。

リビングラボでは、開発企業への支援として、介護ロボットの製品評価、効果検証、介護現場での実証支援を行います。

リビングラボは全国に6施設あり、各リビングラボでは、所在地域に限らず、全国の開発企業の支援を行っています。

6つのリビングラボはネットワークを形成し、開発企業の様々な相談に対応します。

ここからは、相談窓口、リビングラボの活用の流れについてご紹介します。

まずは、お住まいの地域の相談窓口を確認して、お問い合わせください。

直接の訪問も受け付けております。

相談内容に合わせて、適切なサービスをご案内します。

開発企業の方は、相談窓口の取次を受けた上で、リビングラボの各種サービスを利用することができます。

直接リビングラボに相談することもできます。

最後にお問い合わせ先をご紹介します。

概要欄にホームページのリンク及び事務局へのメールアドレスを掲載しておりますので、事業全体に関するお問い合わせは、そち

らまでご連絡ください。

また、相談窓口、リビングラボについても、紹介動画リンク、問い合わせ先を概要欄に貼っておりますので、ぜひご視聴ください。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。

介護ロボット地域フォーラム事務局からのご案内をご覧いただきました。

以上をもちまして、本日のすべてのプログラムが終了となりました。

この後、アンケートフォームをメールにてお送りさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、当セミナーのアーカイブは、後日、埼玉県公式YouTubeチャンネル、サイトマどうがにアップされますので、よろしければご視聴ください。

それではお時間となりました。

本日は、介護ロボットで課題解決！オンラインセミナー実務者層向け介護ロボット埼玉フォーラム2020にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

司会は、辻村ゆりながお送りいたしました。